まちなかのおと5月号

広報・編集部 2022年5月

note /nout/【原義:符号,印.】

●覚え書/メモ/記録 ❷注(釈)/注解 ❸短い手紙/短信 ④音/調子/詩/旋律

番号	企業/団体(順不同)	お名前(敬称略)
ı	空杣(そらそま)代表	高木功次郎
2	数馬酒造株式会社 広報	蔵はる香
3	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 北陸センター	山口泰範
4	社会福祉法人能輝人 (能輝村-のんきむら-)	渡真也
5	ひらみゆき農園	平美由記
6	株式会社 SCARAMANGA / NOTONOWILD	辻野実
7	松波酒造株式会社 若女将	金七聖子
8	能登町定住促進協議会	森進之介
9	能登森林組合	大地敦子
10	株式会社ふくべ鍛冶	干場健太朗
11	株式会社こっしゃえる (イカの駅つくモール)物販	谷口南咲
12	能登町役場 総務課 CATV 放送室	田原総一朗
13	有限会社日の出大敷	中田洋助
14	能登DMC合同会社/金沢大学 医学系公衆衛生学非常勤職員/ 能登里山里海マイスターネットワーク理事	澤千絵
15	能登町役場 農林水産課(~R3)	奥野立樹
16	一般社団法人春蘭の里	多田真由美
17	株式会社したひら (下平鮮魚店)	下平真澄
18	一般社団法人 能登里海教育研究所	能丸恵理子

◆ 地域の探究実践者と語る会 ◆

4月19日、能登高校にて「地域の探究実践者と語る会」が開かれました。デザイン・漁業・移住定住・日本酒・海洋教育・国際協力等々。様々な分野で活躍する18名の「能登高探究パートナー」と能登高校2年生が体育館に集まり、お仕事の実情や日々探究している問いについてトークセッションを行いました。

実際に現場で働いてみて感じたリアルな悩みや、活動を始めるに至った経緯など、生の声を聞くことのできる場でした。「デザインは綺麗な絵を描くことではなくて、クライアントの利益を最大にするためにあらゆる手段を尽くすこと」辻野実さん(写真右、オンライン参加)は、能登を拠点にデザイナーとして活動されています。能丸恵理子さん(写真左)は、小学校教育のサポートや子供向け教材の製作をしており、子供たちと海へ出かけて行ったフィールドワークの様子などをお話しされました。

憧れの仕事にワクワクしたり、知らない業界の話を聞いて、未知の分野のことでポカンとしたり、新たに興味が湧いたりと生徒達の反応も様々でした。いずれにしても地域で探究を続ける実践者に触れて、何か感じることがあったのかもしれません。

ー塾生の声ー

「ずっと能登に住んでいる人は地元を不便だと思っているが、県外から来た人や帰ってきた人は能登を良いところだと話していたのが印象的だった」「(能登町定住促進協議会の森さんの話を聞いて)能登に住みたいと思っている人が予想以上にいてびっくりした」「ひらみゆき農園でブルーベリーを全て無駄なく使っている話を聞いてすごいと思った」「(ふくべ鍛冶の干場さんが話していた)世の中の必要なものに合わせた商売をすればどこでも商売ができる、という言葉が印象的だった」「それぞれの探究実践者に試行錯誤があって、自分達のやっている総合的な探究にも通じると思う」



▲ 能登里海教育研究所 能丸恵理子さん



▲「空杣」代表 高木功次郎さん



▲ 株式会社SCARAMANGA 辻野実さん



▲ 能登高の1年生へ向けた説明会 を行うまちなかスタッフ

四月二十二日には初めてのオンライン保護者説明会を開催し、ンライン保護者説明会を開催して教材、アタマプラスの説明を行いました。ZOOMでの開催ということもあり、初回は参加が難しい方も多かったかと思いま難しい方法で説明会を開催し、いきたいと考えています。今後はさらに皆様が利用しやすい方法で説明会を開催し、いきたいと考えていますのの方法で説明会を開催し、いきたいと考えていますのの方法で説明会を開催し、いきたいと考えていますのの方法で説明会を開催し、いきたいと考えていますの。

まず だきまし いただき、四月十四 てまちな 1月十四1 ております。 月八日は能登高校の の定員を設けておりまた。まちなか鳳雛塾の説明会を 能登高校1日は七限1 ークト、 いつでも入塾をお 案内をさせて ていただくことも 室の説明会を校一年生へ向限目の時間を こていた など、

クライナ情勢を知る会

♦ 高校生、オンラインで世界情勢を学ぶ

4月22日(金)、まちなか鳳雛塾にて「ウクライナ情勢を知る会」 を開催し、高校生13名と地域の方、塾スタッフが参加しました。

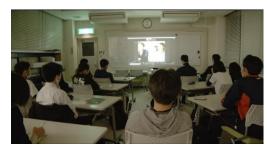
ゲストは、今年2月までウクライナの首都キーウで暮らしていた 金子夏樹さんと、妻の尚子さん。夏樹さんは以前モスクワで働いて いたこともあり、両国に縁のあるお二人です。ロシアによる侵攻が 始まる直前にウクライナを離れ、現在は東京都にお住まいの金子さ ん夫妻にオンライン形式でウクライナとロシアの現状や歴史、文化 などについてお話していただきました。

侵攻の理由について、夏樹さんは歴史的な観点から、ロシアに とってのウクライナの重要性を話し、尚子さんは日常の場面で感じ たウクライナのロシア離れを指摘。1~2年ほど前からウクライナの 飲食店でロシア語の表記が禁止になったそうです。

◆ 人懐っこいロシアの人たちと、楽観的なウクライナの人たち

参加者からはウクライナの食文化にまつわる質問もありました。 そこから現地のスーパーマーケットに並ぶ食材や、ウクライナの家 庭料理など、普段の暮らしぶりがイメージできるエピソードなども お伺いできました。

怖そうに見えて実は人懐っこく情に厚いロシアの人々や、大雪が 積もっても支障が出るまで対処しない楽観的なウクライナの人々な ど、そこで暮らしたからこそ見えてきたそれぞれの国の素顔も話し ていただきました。



▲ オンラインでゲストのお話を聞く高校生たち



▲ 金子夏樹さん(左)と尚子さん(右)

◆ 視点を変えて見てみること、自分の頭で考えてみること

夏樹さんは高校生たちへ「一方的な見方が広がりやすい世の中だけど、情報をうのみにせず自分の頭で考えることをく せにしてほしい」と呼びかけました。尚子さんは「何も知らないままウクライナに住み始めたが、今では大好きな国に なった。自分の好きなことを活かして先入観なく飛び込んで」とアドバイス。

参加した高校2年生のある生徒は、「ニュースでは戦争が起こった原因や、世界への影響などの話が中心だが、今回は そこで暮らす人が感じていることや普段の様子など、別の視点から話が聞けた。色々な視点から見ていくことが大事だと 気付くと同時に、これからも両国について調べていこうと思った」と感想を話しました。



▲ スタッフ推薦図書コーナー

子ども になぜ 読り 読んでいた記憶もないのりました。特に気に入っどもの頃から家の本棚に かずっと心に残 推薦図



ユリー・シュルヴィッツ作 瀬田貞二 訳

紹介。会においる。 介。今1 書ら 白由図二塾 はに書し内 に借りることができカードに記名している。 中 冊でし げッ き てなフ

ま ち な か ഗ 本

協力ありがとうございま



お知らせ

◇中学2年生は定員充足のため 募集停止しております。

高校生必見! 大学・短大オープンキャンパス情報



まちなかの予定

5月

13日 臨時閉塾

27日 第1回英検(能登高) 6月

11・12日 高3進研マーク模試 26日 鳳雛塾・考査前学習会

7月

3日 第1回石川県総合模試(中3) (6月20日(月)申し込み〆切!)

28日~ 能登高1学期期末考査